

U.S. Indicators

発表日: 2022 年 9 月 7 日(水)

米国 8 月 ISM 非製造業も上昇し大幅利上げ継続観測

～供給制約やインフレ圧力の緩和傾向も持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

22 年 8 月の I S M非製造業景気指数（総合、季節調整値）は、56.9（前月 56.7）と市場予想の 55.3 への低下に反して前月比+0.2% p 上昇し、高い水準を維持した。これを受け、F F 金利先物は 9 月 F O M C での 75bp 利上げの織り込み度合いを高めた。

入荷遅延が供給制約の緩和によって低下した一方、新規受注、活動指数が需要の強さを背景に上昇したほか、離職者の補充困難が続くなかで雇用指数が小幅上昇し、全体を押し上げた。米国の非製造業部門は、インフレ高進、金利急騰のほか、人手不足、生産能力不足などによる供給制約など多くの逆風を受け減速しているものの、堅調さを維持している。そのような中、非製造業部門で供給制約やインフレ圧力の緩和が続いていることが示された。

8 月は、18 業種中 14 業種が拡大した（7 月 13 業種の拡大）。拡大した業種で、強い順に鉱業、不動産業、公益、建設業、教育サービス、情報産業、運輸・倉庫、卸売業、医療・社会支援、公的部門、金融・保険、企業向けサービス、専門・科学・技術サービス、その他サービスと続いた（下線は拡大・縮小が 2 カ月以上続いたことを示す）。縮小した業種は、農林水産業、芸術・娯楽・レクリエーションの 2 業種（7 月 3 業種）に減少した。小売業、宿泊・飲食サービスは変わらずとなった。

企業からの報告で、建設業、教育サービスが強い需要の継続、卸売業が安定継続、小売業がマクロ経済環境や消費者マインドの悪化を懸念も変化なしと指摘したほか、建設業が一部の計画の撤回も事業活動は強いままであると報告した。

インフレ面では、宿泊・飲食サービスでは、コスト上昇圧力が緩和し始めているほか、供給の健全性が報告された。卸売業は、季節的に 9 月にかけて供給が増加し、インフレ圧力が緩和すると予想していることを報告した。一方、建設業では、労働問題の若干の緩和、リードタイム、コスト上昇圧力が緩和し始めているものの、21 年よりもリードタイムは長く、価格は高いと指摘された。

サプライチェーン問題について、教育サービス、医療・社会支援、企業向けサービス、公益はリードタイムが伸び続けていることを指摘した。また、労働力不足が続いていることを報告したのは、医療・社会支援、専門・科学・技術サービス、行政。インフレ関連では、行政、医療・社会支援がコスト増加を指摘した。

非製造業総合指数の構成項目では、入荷遅延が 54.5（前月 57.8、前月比▲3.3% p）と低下した一方、新規受注が 61.8（前月 59.9、前月比+1.9% p）、活動指数が 60.9（前月 59.9、前月比+1.0% p）、雇用が 50.2（前月 49.1、前月比+1.1% p）と上昇した。新規受注、活動指数は高い水準を維持しており、需要が依然強いことを示している。総合指数への寄与度では、入荷遅延が前月比▲0.82% p の押し下げ寄与となった一方、新規受注が前月比+0.48% p、雇用が前月比+0.28% p、活動指数が前月比+0.25% p の押し上げ寄与となった。

サブ項目では、新規輸出受注が 61.9（前月 59.5、前月比+2.4%p）と上昇し高い水準を維持しており、米国サービス輸出の高い伸びを示している。一方、輸入は 48.2（前月 48.0、前月比+0.2%p）と上昇したが 50 を下回っており、サービス輸入の縮小持続を示した。

インフレ環境では、仕入価格指数が 71.5（前月 72.3）と低下しインフレ圧力緩和の継続が示されたものの、ディーゼル燃料、労働コスト、燃料、鉄鋼製品、電気部品等の上昇によって高い水準にとどまっており、インフレ圧力が依然強いことを示した。

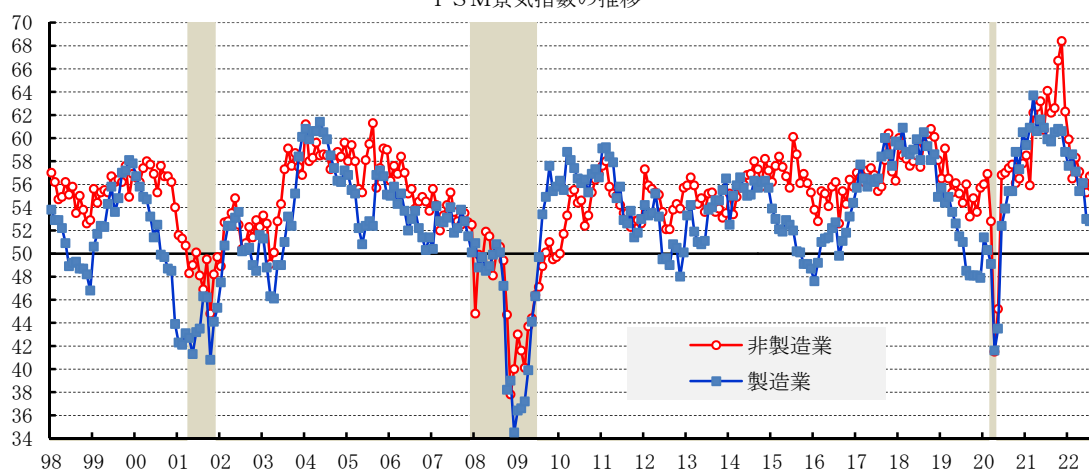
米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、8月に 56.5（7月 56.3）と前月比 0.2%p 上昇した。7、8月平均では、製造業が 52.8（4－6月期 54.8）と低下したが、非製造業が 56.8（同 56.1）と上昇したことで、ISM総合景気指数は 56.4 と 4－6月期の 56.0 から小幅上昇しており、7－9月期の米景気拡大持続を示した。

ISM非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動
21/08	62.2	61.5	63.8	54.1	69.6	61.3	75.9	60.6	46.9
21/09	62.6	63.4	64.2	54.1	68.8	61.9	79.5	59.5	46.1
21/10	66.7	69.4	69.0	52.8	75.7	67.3	83.0	62.3	42.2
21/11	68.4	72.5	68.3	57.0	75.7	65.9	83.0	57.9	48.2
21/12	62.3	68.3	62.1	54.7	63.9	62.3	83.9	61.5	46.7
22/01	59.9	59.9	61.7	52.3	65.7	57.4	82.3	45.9	49.4
22/02	56.5	55.1	56.1	48.5	66.2	64.2	83.1	53.0	50.8
22/03	58.3	55.5	60.1	54.0	63.4	64.5	83.8	61.0	51.7
22/04	57.1	59.1	54.6	49.5	65.1	59.4	84.6	58.1	52.3
22/05	55.9	54.5	57.6	50.2	61.3	52.0	82.1	60.9	51.0
22/06	55.3	56.1	55.6	47.4	61.9	60.5	80.1	57.5	47.5
22/07	56.7	59.9	59.9	49.1	57.8	58.3	72.3	59.5	45.0
22/08	56.9	60.9	61.8	50.2	54.5	53.9	71.5	61.9	46.2

（出所）ISM

ISM景気指数の推移



（出所）ISM （注）シャドー部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

